

## 『光る君へ5』

滝の音は 絶えて久しく なりぬれど 名こそ流れて なほ聞こえけれ

だいなごんきんとう  
大納言公任

### 【現代訳】

滝から流れる水音が聞こえなくなってから、もう長い年月が過ぎ去ってしまったが、その名声だけは世間に流れ伝わって、今もなおよく人々に知れ渡っていることだよ。

この歌は大覚寺にある庭園の滝殿跡で詠まれました。大覚寺は嵯峨天皇の離宮で庭には優雅な滝が流れていましたが公任が訪れた時には流れていませんでした。かつて滝が流れていた光景を思い浮かべると、その評判は今もなお伝わっており、私もその恩恵にあやかりたいという思いが込められています。

作者、大納言公任は、藤原公任のことで、関白藤原頼忠の長男として生まれ、藤原定頼の父でもありました。歌に優れ「和漢朗詠集」「拾遺抄」「三十六人撰」それぞれの撰者の一人で、家集である「公任集」も有名な作品の一つです。官位は正二位・権大納言で、小倉百人一首では大納言公任と称されます。大鏡に三船の才というエピソードがあります。藤原道長が大堰川で船遊びを開催した時、参加した人をそれぞれ和歌・漢詩・音楽の三つの分野に分けた船に乗せました。公任にだけはどの船に乗るか指示せず、公任が和歌、漢詩、管弦どれにも堪能であることが時の権力者にも認められていたという話です。

山陽小野田かるた協会 小田広行